

自分たちで育てた花を前にして撮影。



地域の伝統と自然を守る

豊かな体験活動を教育に生かしています。

今回紹介するのは串間市立市木小学校（上園昭智校長・全校児童24人・職員8人）です。
自然を守る活動

市木小学校では自然を守る活動に取り組んでいます。

毎年1学期に行う市木中学校との合同歓迎遠足では、1時間以上歩いて、渚百選にも選ばれた美しい石波海岸を目指します。遠足の後半は海岸を全員でごみ拾い。「美しい自然を自分たちで守っていく」という思いを育てています。また石波海岸はアカウミガメの産卵地でもあり、毎年8月には子ガメの放流会を実施。カメたちが再びこの海岸に戻ることを祈り、地球環境や自然を守る大切さを感じています。

自然の中の体験活動

体験活動にも取り組んでいます。「市米田」と名付けた学校近くの田で毎年田植えと稲刈り

を体験。8月の暑い中での稲刈りは、保護者の手助けを借りながら一生懸命作業。収穫したお米は9月に開催する「おにぎりまつり」で自らおにぎりを握り味わいます。苦勞して収穫したお米の味は格別です。

自分の思いを表現する活動

昨年は課題に沿って自分の考えを書く活動に取り組みました。結果、自分の意見を主張できる児童が増え、宮崎日日新聞の「若い目」に全児童の作文が掲載されました。今年は自然を守る活動や体験活動を生かし、「堂々と豊かに」意見を表現できる児童を目指して取り組んでいます。

「素直で元気、みんな仲がいい」と子どもたちの様子を話す上園校長。「今よりさらに何でも一生懸命で、チャレンジ精神を持った気持ちの優しい子に育ってほしい」と願っています。

地域の伝統を守る



子ども柱松

市木地区に300年前から伝わる「市木柱松」。無病息災、五穀豊稔を願う十五夜の行事で、一時途絶えていたものを地域の方々が復活させました。

この行事に市木小学校の子どもたちも「子ども柱松」として参加。紙コップとゴムボールで作った「手松」を柱松の先にあるカゴに向かって投げつけます。柱松も子どもたちで立ち上げます。3班に分かれリーダーの合図に従って柱松を立ち上げていく作業は、全員のチームワークが大切です。

地域の祭りに参加、体験することで「ふるさとへの思い」が子どもたちの心の中に深く根ざしていきます。